

表18 金属製品観察表（煙管）

百間堀西側

挿図 番号	出土地点		種別	計測値 (cm)						備考	M番号	R番号
	グリッド	遺構・層位など		a	b	c	d	e	f			
96-6	B-4	4-401	雁首	5.9	2.45	0.6	1.4	0.95	0.4	火皿(M19)接合 肩付? 肩欠失	204M014	R4-108
96-2	B-4	4-401	雁首	7.3	2.4	1.0	0.8	0.5		火皿欠失	204M026	R4-027
96-8	B-4	4-401	雁首	4.3	3.5	0.7	1.5	1.2		火皿左下に小孔	204M039	R4-056
96-7	C-4	10-1006	雁首	5.1	2.55	0.6	1.2	1.0	—	補強帯付 肩付? 肩欠失	210M095	R10-97
96-1	C-3	10-1005	雁首	7.6	3.0	1.1	1.5	0.8		鍍金	210M012	R10-44
96-5	C-3	10-1005	雁首	6.45	2.35	0.9	1.4	0.9	2.3	補強帯付 肩付	210M021	R10-44
96-10	B-7	02-4カクラン	雁首	4.1	1.75	1.0	1.0	0.7	—	太くて短い	204M214	R3-533
96-14	B-4	4-401	吸口	5.1	1.0	0.4	1.75				204M025	R4-008
96-11	B-4	4-401	吸口	6.2	1.1	0.4	2.2				204M004	R4-054
96-12	B-4	4-401	吸口	10.1	1.15	0.4	—				204M040	R4-058

百間堀東側

挿図 番号	出土地点		種別	計測値 (cm)						備考	M番号	R番号
	グリッド	遺構・層位など		a	b	c	d	e	f			
96-18	C-8	3-227	一体型	15.85	1.2	0.4	13.2	—		刀豆形煙管	203M180	R3-527
96-17		02-3 百間堀	一体型	11.5	1.6	0.6	—	—		延べ煙管? 火皿欠失	203M349	
96-3	A-7	3-59	雁首	7.8	2.9	1.1	1.6	1.1		補強帯付 鍍金	203M030	R3-252
96-9	C-8	3-214	雁首	3.8	2.05	0.7	1.6	0.8		肩付? 肩欠失	203M337	R3-494
96-4		02-3 百間堀	雁首	6.0	2.3	0.8	1.3	0.7		補強帯付	203M038	R3-020
96-13	A-7	3-61	吸口	7.2	0.75	0.4	—				203M072	R3-206
96-16	A-8	3-50	吸口	7.4	1.2	0.4					203M151	R3-128
96-15	C-8	3-226	吸口	7.9	1.0	0.4					203M304	R3-566

表19 金属製品観察表（日用品・その他）

百間堀西側

挿図 番号	出土地点		種別	計測値 (cm)					備考	M番号	R番号	
	グリッド	遺構・層位など		a	b	c	d	e				
97-3	C-3	10-1005	鉄	14.3	0.2	5.35					210M059	R10-174
97-2	C-7	9-02	火打金	4.05	11.4	0.35				山型	209M001	R9-053
97-9	C-7	9-04	火箸	25.5	0.75	0.55				断面四角	209M048	R9-099
97-10		4-534	火箸	32.05	0.6	0.6				先端欠損	204M135	R4-201
97-12		10-1005	吊手金具	9.2	8.6	0.6				振り 約半分欠失	210M107	R10-241
97-13	C-4	10-1006	鍋吊金具	10.5	20.25	0.25				両端釣鉤状	210M001	R10-32
97-11	C-4	10-1006	鍋吊金具	10.4	17.45	0.15				振り 両端に円孔	210M028	R10-45
97-14	C-4	10-1006	鍋吊金具	10.4	17.3	0.2				板状 両端に円孔	210M102	R10-97
97-7	C-3	10-1005	紡錘車	19.4	0.35	紡輪3.75	厚 0.2				210M103	R10-402
97-4	B-4	4-401	門扉金物	8.9	8.9	0.25					204M034	R4-026
97-8	C-7~8	9-02	錐状製品	20.1	0.65	0.55				工具?	209M032	R9-021
97-15		02-4 百間堀	空薬莖	長11.05	底径1.7	口径1.2				大陸製 使用済	204M045	

百間堀東側

挿図 番号	出土地点		種別	計測値 (cm)					備考	M番号	R番号	
	グリッド	遺構・層位など		a	b	c	d	e				
97-1	C-7	3-213筒内底礫層	庖丁	21.4	17.0	3.6	3.9	0.2		菜切庖丁	203M273	R3-687
97-5	B-7	3-200	鍵	6.7	1.8	0.6					203M210	R3-456
97-6	B-6	3-53	鍵	3.9	1.8	0.4					203M114	R3-123

本丸・二ノ丸・三ノ丸は、石塁および城濠ほとんど旧の如く現存し、転々昔時の規模を偲ばしむ。外郭は諸所に濠址の存するあるも、ほとんど旧形を失いて市街地に編入されたり。

本城の形式は全然平城に属し、石壁高からず城濠深からず領主の居館として設計されたる点を見るべしと雖も、大手・搦手の備えは嚴重にして櫓および城門の規模整備せるを見る。然れども、その城域の極めて広潤なるは七十萬石の城地に相当せるものと云うべく、本邦稀に見る城址なり。

然して、その最も尊重すべきは、城の主要部は石塁城濠など損所なく保存せられたる事にして、将来に於いてもこれが保存に注意すべし。もし、これら石塁および付近地形の変更に際しては、予め実測図を造り、写真によりて各部を撮影して、図上保存の目的に供すべし。

上田三平 1921「第二十章 福井城址」『若狭及越前に於ける奈良朝以降の主なる史蹟』

福井県史蹟勝地調査報告第二冊 福井県内務部より、一部改変

以上の文章は、大正 10 (1921) 年当時の福井城の現状を伝えるものである。外曲輪については、既に市街地化が進行しているようであるが、城郭中枢部の石垣・堀などには、まだ手が加えられていないことが分かる。この文章の警告は、残念ながら一般に受け入れられることはなく、復元可能なまでの詳細な図・写真のないままに、石垣は崩され、堀は埋められ、城郭は市街地化していった。

現在の福井城は、本丸の周囲にその面影を残すのみとなっている。しかし、市街地の中に見られる路面などの高低差や古い市街地の街割には、かつての曲輪の配置や街区の状況が反映されており、辛うじて窺うことが可能である。そして、埋め立てられた堀や石垣の下部構造は、地下に比較的良好な状態で残存している。ただし、今回の調査で明らかのように、生活面・遺構面そのものは、度重なる路盤改良などのために既に削平されており、廃棄土坑や井戸など大型の遺構が残存するのみであった。

近年、中心市街地、とくに福井駅周辺での再開発事業が活発となっている。今回の調査の契機である福井駅西口地下駐車場建設も、その一環である。更なる大規模開発、新たなる区画整理の進行は、辛うじて残存する遺構や堀・石垣を破壊・消滅へと導き、曲輪や街区の状況を伝える街割の喪失を促すこととなる。福井城は、本丸以外は既に眼に触れない状態であるが、完全に失われているわけではない。90 年前の姿に戻すことは不可能であるが、辛うじて残存する痕跡が消滅してしまう前に詳細な記録を留め、後世に伝えて行かなくてはならない。（御嶽）